

Taisei Kougyou Report

2023. 1. 18

先月行われた「とっとりSDGsビジネスアワード」の受賞企業が日本海新聞で紹介されました。

最優秀賞をいただいた弊社の取り組みも「世界の衛生環境改善に貢献」として掲載されています。

（第3報奨品特選号） < 特集 > 日本海新聞 2023年(令和5年)1月28日 土曜日 (22)

「将来もずっと住み続けられる鳥取県」を目指して地方創生を実現すべく、若者や企業、団体とのネットワークを構築しながら地域の総力を結集し、持続可能な開発目標(SDGs)の認知度向上や実践拡大につなげている鳥取県。今や真っ先に名前が挙がる「SDGs先進県」でもある。本年度は「SDGs未来都市」にも選定され、「とっとりSDGsビジネスアワード」を創設するなど、さらなるSDGsの取り組み拡大に力を注ぐ。

とっとりSDGsビジネスアワード 受賞企業 紹介

リトルで利取る！ 鳥取県は「SDGs未来都市」へ

昨年5月、鳥取県はSDGs未来都市に選定された。人口最少、経済最小の鳥取県では「人と企業こそ最大のリソース」と考え、「人づくり王国」を掲げ、さまざまな取り組みを展開している。SDGsを学び、身の回りで実践する子どもたちを応援しようとして「とっとりSDGs子ども伝道師」制度を創設するとともに「とっとりSDGs企業認証」制度を創設し、7月には第1回認証企業として27社を決定。持続的な成長、価値向上に取り組む企業を応援している。さらにはSDGs推進のロールモデルと

なり得る県内企業の優れた活動を顕彰する「とっとりSDGsビジネスアワード」を創設した。公募の結果、幅広い分野から18社の応募があり、「ビジネスとして持続可能な取り組みか」「県内において幅広くモデルとなる取り組みか」など複数の視点で審査し、受賞企業(最優秀賞1、特別賞2)を決定。12月18日に開催した「とっとりSDGs未来都市選定記念フォーラム」で表彰した。このような受賞企業の優れた取り組みを広く紹介することで、県内企業に取り組みの輪が広がっていくことが期待される。

最優秀賞 大成工業 米子市 三原博之社長

生活排水処理施設の設計・施工

世界の衛生環境改善に貢献



多くの人が海外排水を不衛生なく水を中に放り出す。管理が容易で電気や放流が必要ないのが特徴。ダム(鳥取県、山形、秋田)など日本国内で約50カ所が導入。海外でも、国際協力機構(JICA)の協力を得て、2019年10月に鳥取県に建設された。2019年10月に鳥取県に建設された。2019年10月に鳥取県に建設された。

「とっとりSDGsビジネスアワード」に選ばれたのは、鳥取県米子市にある大成工業株式会社の三原博之社長(前左)と、海外プロジェクトマネージャーの松本浩二氏(前右)だ。大成工業は、海外排水処理施設の設計・施工を手掛けている。海外排水処理施設は、国内の排水処理施設とは異なり、衛生環境の改善に大きく貢献している。大成工業は、海外排水処理施設の設計・施工を手掛けている。海外排水処理施設は、国内の排水処理施設とは異なり、衛生環境の改善に大きく貢献している。

特別賞 流通 倉吉市 江原 剛社長

運送・イベント事業

会社一丸取り組み

SDGsの17項目に於ける流通の改善点や新しい決まりを自ら自発的に、日々の業務で実践している。SDGsの17項目に於ける流通の改善点や新しい決まりを自ら自発的に、日々の業務で実践している。

特別賞 三光 境港市 三輪昌博社長

総合環境事業 (廃棄物処理、リサイクル)

排熱利用し養殖



養殖物を供給する際に発生する未利用エネルギーを蒸気交換して給湯し、自社工場の電力を供給する。海水を温める熱源として循環利用することにより、海産物の陸上養殖を手がける。排熱で海水を温め、キジハタを養殖